



足元、トランプ米大統領の強硬姿勢を背景に、イランを巡る緊張感が高まり、地政学的リスクが浮上しています。しかし、こうした不安な時代だからこそ、資産運用を止めるのではなく、継続する姿勢が重要になります。

時間をかけて積み上げるといふ資産運用の基本は、環境の変化に左右されるものではありません。その選択肢の一つとして挙げられるのが、世界経済の成長を取り込む、全世界株式を対象としたインデックスファンドです。

そこで今回は、この全世界株式について、その特徴と向き合い方を整理していきます。

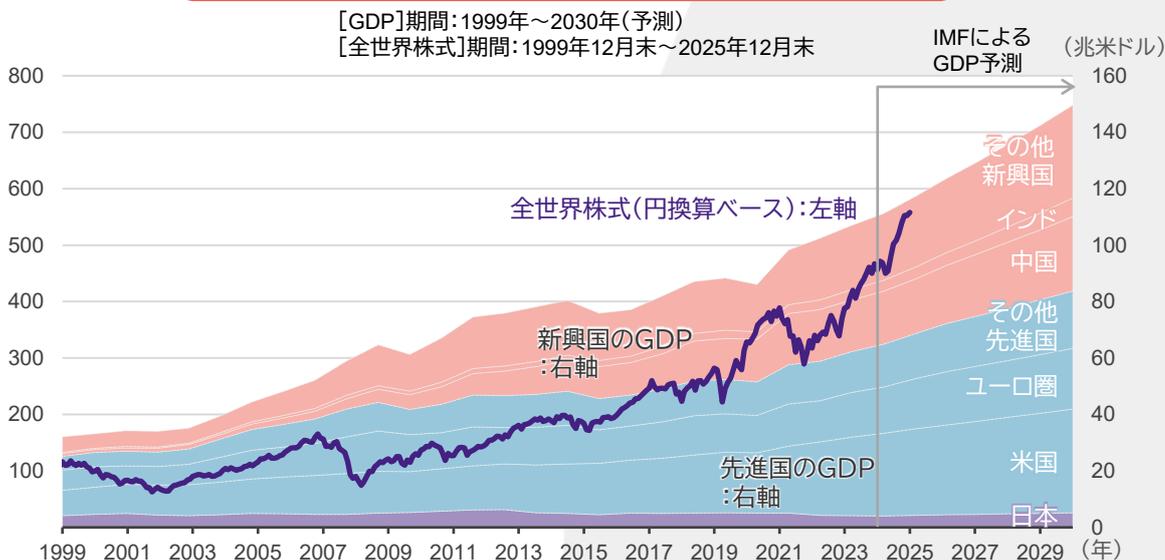
投資家の皆様から人気を集める全世界株式についてご説明します。



世界全体の成長を土台とする全世界株式

全世界株式の代表的な指数として挙げられることの多い、MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、先進国(含む日本)および新興国の株式市場に上場する大型および中型株で構成されています。ここで大切なのは、全世界株式が「特定の国が勝つ」前提ではなく、「世界全体」の成長を土台にしている点です。世界の経済や人口は成長を続けており、今後も拡大が予想されています。そのなかで全世界株式は短期では上下しつつも、概ね右肩上がりで見られてきました。

世界の経済規模(名目GDP)の推移・予測と全世界株式の推移



全世界株式: MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス。全世界株式は税引後配当込み、米ドルベースの値をアモーヴァ・アセットマネジメントが円換算。IMF「World Economic Outlook, October 2025」および信頼できると判断したデータをもとにアモーヴァ・アセットマネジメントが作成。左記は過去のものおよび予測であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

2025年9月1日付で、日興アセットマネジメント株式会社から社名変更しました。

当資料は、アモーヴァ・アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

不安が多い今だからこそ考えたい世界への分散

例えば特定の国・地域での地政学的リスクが意識された場合、その国・地域に投資が集中していると、ポートフォリオへの影響が大きくなります。一方で、世界全体に広く分散投資していれば、ショックの影響を受ける部分はあっても、同時に比較的影響が軽い部分も持っていることになります。もちろん、世界同時に下落する局面もありますが、幅広く分散していた方が運用の前提が揺らぎにくく、資産運用の継続が容易になると考えられます。

地政学的リスクのようなニュースは、どうしても市場心理に影響を与えます。しかし、その特徴は「資産価格が大きく動くケースが多い」ことに加え、起きるタイミングや今後の展開が読みにくいことにあります。いつ、どこで、どの程度の影響が出るのか——事前に完璧に見通すことは困難で、むしろ「想定外」の形で表面化しやすい。だからこそ、投資の意志決定を“予測に基づいたもの”に寄せすぎると、行動が止まりやすくなります。

考えておきたい、資産運用を継続するためのルール・仕組みづくり

資産運用で大切な事は、正解を当てることよりも、続けられるルール・仕組みを持つことです。全世界株式は、その「続けやすさ」の面で、有効な選択肢になり得ます。

世界に分散している状態を「維持できる」ように、ルール・仕組みを決める。たとえば以下のような小さな工夫が、結果として「続けられる資産運用」につながると考えられます。

1

毎月同額で積み立てる

世界分散の状態を自然に積み上げられます。

2

生活資金は別で確保し、投資資金を維持しやすくする

使う予定のないお金だけを投資に回すことが、継続するためのポイントです。

3

大きく下がっても投資方針は変えない

短期の値動きに反応しないルールが、長期投資を支えます。

上がる日も下がる日も、同じで大丈夫。続けやすい形にしておきましょう。



全世界株式を長期運用の土台として活用する

一方で、全世界株式を「不安な時代の万能薬」のように捉えるのは避けたいところです。まず、全世界株式は株式ですから、やはり上下します。世界全体に分散していても、景気の減速や市場環境の変化があれば、株式という資産クラス全体が調整することもあります。「分散＝下がる」ではないことは理解しておく必要があります。

さらに言えば、局面によっては、特定の国・地域や特定のテーマに集中投資した方が大きく上昇することもあります。全世界株式を「最も儲かる」選択肢のように捉えるべきではありません。

だからこそ、全世界株式の評価軸は「短期の勝ち負け」ではなく、長期の土台としての納得感に置くのがよいと考えられます。「世界の成長を取り込みたい」「予測に依存しすぎず資産運用を続けたい」——その目的に照らして初めて、全世界株式の役割がはっきりします。

ちょっとステップアップ 土台への上乘せを考えてみる

全世界株式を土台にしつつ、そこに別の資産を上乘せするという方法もあります。例えば、値動きのブレを抑え、分散効果を高めたいのであれば価格特性の異なる金を、成長性をもう一段意識したい場合にはテクノロジー株式を組み合わせる、といった選択です。

いずれも全世界株式を中心に据える点は共通ですが、何を重ねるかによって運用の特性は少しずつ変わります。大切なのは、リターンの大小だけでなく、自分が納得して続けられるかどうかです。最適解は人それぞれ。だからこそ“続けられる配分”こそが、きっとあなたの正解になります。

例えば金と組み合わせると…

資産全体の値動きを和らげる効果が期待

金は、企業の成長とは異なる値動きをすることが多く、株式市場が不安定な局面でも価値を保ちやすい特徴

例えばテクノロジー株式と組み合わせると…

資産全体の成長性を高める効果が期待

AIや半導体、クラウドなどの技術は、社会構造そのものを変えていく力を持ち、その成長の果実をより積極的に取り込みたいと考える方



ご自身の目的に合わせて、考えてみてくださいね。



コールセンター
0120-25-1404
営業時間 平日 9:00-17:00



2025年9月1日付で、日興アセットマネジメント株式会社から社名変更しました。

当資料は、アモーヴァ・アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。